KAGAWA ROSAI HOSPITAL
いぶき

いぶき　第96号
発行者　吉野公博
編　集　患者サービス向上委員会
香川県丸亀市城東町３丁目３番１号
ＴＥＬ（０８７７）２３－３１１１
ＦＡＸ（０８７７）２４－１１４７
季刊誌 年４回発行
https://www.kagawah.johas.go.jp

当院における大腸癌の外科治療の特徴

第五外科部長　戸嶋　俊明

大腸癌は罹患数（大腸癌と診断される数）は男女合計で1位（男性3位、女性2位）、死亡数は2位（男性2位、女性3位）ととても頻度の高い病気です。

当院では大腸外科専門医（日本内視鏡外科学会技術認定医（大腸領域）、大腸癌に対するロボット支援手術プロクター（手術指導医）、大腸肛門病学会専門医）を中心としたチームによる手術を行っており、より専門性の高い手術を受けていただけます。当院における大腸癌手術の特徴についてご説明いたします。

①低侵襲な治療を心掛けています

当院では腹腔鏡手術やロボット支援下手術といった低侵襲（傷口の小さい）手術を積極的に行っています。2024年は98％（146件中142件）の患者様に低侵襲手術を行い（図1）、術後の疼痛（傷の痛み）や合併症の低減に努めています。

②高度進行癌でも根治手術（癌を治しきること）を目指します

大腸癌は手術により根治が期待できる癌です。周辺の臓器に浸潤（食い込む）している癌でも、拡大切除を行うことにより根治を目指します。また初診時は根治手術が不可能（局所進行癌や遠隔転移）であっても、放射線療法や化学療法（抗がん剤など）を組み合わせて、最終的に根治手術ができるよう最後まであきらめずに治療を行います。

③肛門温存に努めています

肛門に近い直腸癌の手術においては、永久の人工肛門が必要となることがあります。当院では患者様のご要望をなるべく尊重し、肛門近くの癌でもできる限り肛門を温存した手術を行います。

④（一時的）人工肛門を減らす取り組みを行っています

直腸癌の手術において肛門を温存した場合は消化管吻合（切った腸の前後を繋ぐこと）後の縫合不全（うまく繋がらないという合併症）が問題となります。縫合不全の予防のために一時的人工肛門を造ることがあり、直腸癌手術の42％に造られているという報告があります[1)]。当院ではより安全な手術（消化管吻合）を行うことにより一時的人工肛門を造らない取り組みを行っています。

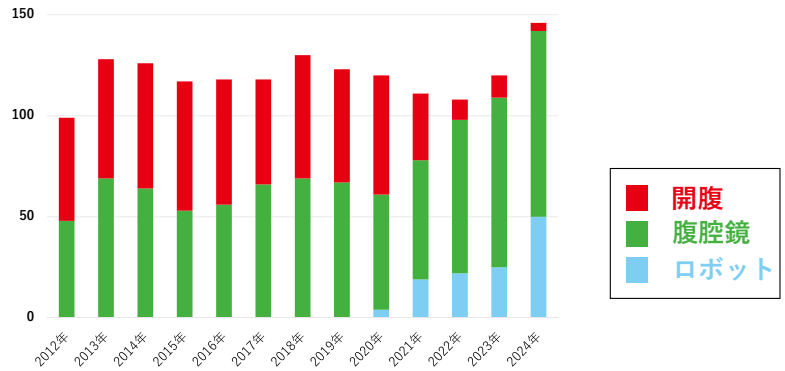
最後に

他院で、手術が不可能である、開腹手術が必要である、人工肛門が必要である、などと説明を受けられた方もご相談事などありましたらいつでも当院外科にお問い合わせください。

1）Shiomi A, et ai. J Am Coll Surg, 220 : 186-194, 2015.

図1 当院における大腸癌原発切除 手術件数

腹腔鏡/ロボット手術
2024年　98%



香川労災病院の理念

働く人々や地域の人々に
安全で安心のよりよい
医療と看護を提供します

1月22日にニューイヤーロビーコンサートを開催しました

NEW YEAR
LOBBY CONCERT

邦楽アンサンブル煌（こう）より、箏（こと）の演奏者の山本　雅史麗（まさしれい）様、高橋　雅史晃（まさしこう）様、松永　雅史晴（まさしせい）様、尺八演奏者の山辺　啓三様の４名の方に演奏していただきました。

箏の演奏者は、着物をリメイクしたワンピースで、和洋折衷を感じさせる雅やかな衣装で登場していただきました。

古くから受け継がれている箏と尺八の魅力を大事にしつつ、新しい変化も取り入れた曲目での演奏をしてくださいました。

多くの方が演奏を聞きにロビーへ集まり、患者さんも職員一同も、箏と尺八の演奏に癒されました。演奏してくださった皆様、ありがとうございました！

オープンホスピタル

広報委員会委員長　次田　誠
外来師長補佐　亀井　安菜

令和7年2月15日（土）にオープンホスピタルを開催しました。放射線機器、薬剤師、臨床工学機器、検査、手術室、助産師／看護師、作業療法の各体験を行い当院の業務を知って頂き、骨粗鬆症検査、血糖測定、栄養管理部、健診部も検査を通じて健康への関心を持って頂きました。今年は中高生を対象とした医療従事者の職業説明会も各部署で行い、いずれも予想以上の来場者にお越しいただきました。来年度もこの取り組みを続けていきますのでよろしくお願いいたします。

手術室体験

当日、外来部門では「めざせ！骨マスター！」という骨粗鬆症ブースを運営しました。骨密度無料測定と医師の結果説明、骨粗鬆症認定と骨粗鬆症マネージャーによる骨粗鬆症セミナーも開催し「骨粗鬆症という病気について」と「骨粗鬆症予防のための栄養と運動」について一般の方向けの内容で行いました。他にも塗り絵やお菓子詰めコーナーを設置し、たくさんの方の参加により大盛況でした。ご参加くださった皆様ありがとうございました。

骨粗鬆症セミナー

看護師体験

救急車と健診車

職業説明会

連載❶

瀬戸内から世界へ
～風土とつくる現代サーカス～

一般社団法人瀬戸内サーカスファクトリー代表理事　田中未知子

こんにちは、瀬戸内サーカスファクトリー代表の田中未知子です。15年前に香川県に単身移住し「現代サーカス」を日本で発展させるための活動を続けています。

日本では現代サーカスという名称すら知られていなかった２００７年に、10年半勤めた北海道新聞社を退職し、現代サーカスとは何かが1冊でわかる概説書の出版を目指して渡仏しました。

２００４年に新聞社で初めてフランスのヌーヴォー・シルク（新しいサーカス）という分野のアーティストたちを招聘してからは、毎年フランス大使館と連携しながら招聘事業を重ねてきたため、自分個人としても少しずつ仏大使館との繋がりを持てるようになっていました。退職して渡仏するに当たって決めていた第一の目標がありました。それは、取材拠点として、パリにあるフランス国立サーカス大道芸情報センター Horslesmurs（現・ARTCENA）に受け入れてもらうこと。

オール・レ・ミュール（現・ARTCENA）

外国の国立組織に、数カ月とはいえ受け入れてもらうなんて、かなり大胆な考えだったと思いますが、大使館の人づてで、なんとHorslesmurs（オール・レ・ミュール）の理事長に「受け入れますから、どうぞ来てください」という判断をいただいたときはまさに狂喜乱舞でした。退職後渡仏し、張り裂けそうに緊張してHorslesmursに到着。理事長はその日不在で、ディレクターと部下たちがいました。彼らの第一声に心臓が爆発しそうになりました。

理事長（当時）ジャン・ディーニュと私

「ジャン（理事長）は受け入れると言ったかもしれないけど、ここにはあなたを受け入れるスペースはない。無理なんですよ」と。

いつも遠慮してしまう性格でしたが、この時の自分は違いました。10年勤めた会社を退職しすべてを置いてきたわけですから、選択肢はないのです。震える声でこう伝えました。

「事情はわかりますが、私ももう帰れません。会社を辞め、すべてを置いてきたのです。絶対にここで本出版の準備をさせてください。」

みなは顔を見合わせ、理事長のジャンに電話をするなどして、どのくらいの時間待ったでしょうー。ついにしぶしぶ言いました。「わかりました。3カ月だけ、なんとか場所をつくりましょう。」と。

理事長のジャンと会えたのは数日後だったと思います。以来ジャンは人生の師匠であり、どれほど影響を受けたかわかりません。ジャンの話はまた改め、Horslesmursにいた3カ月のことを話しましょう。

フランスの現代サーカスフェス

パリのバスティーユ広場に近い地区に、事務所はありました。私の部屋の対面には大きなガラス張りの会議室があり、時々ヨーロッパ中の有力な劇場やフェスティバルディレクターたちが侃々諤々、議論しているのが見えました。設立され

田中も登壇したシルコストラーダのトークセッション

たばかりの現代サーカス欧州ネットワーク「Circostrada（シルコストラーダ）」の会議でした。当時の私は本出版に向けた初期段階で、実績もなく、意志と夢だけの存在で、アジア人である自分がCircostradaに関われることなど、永遠に無いのだろうとぼんやり感じていました。それから10年後に、アジア初のCircostrada正規メンバーに認定されることになるのですが…それはだいぶ、後のお話。

まずは本の出版を目指し、自分が製作したい本の概要を何度も書き直していました。新聞社でも記者ではなく、事業局（イベント運営部署）でしたので、自分が執筆できるとは考えていませんでした。執筆は専門家に依頼し、自分は編集をしようと思っていたのです。ところが取材を1年も続けるうちに、専門家から「どうして自分で書かないの？」と訊かれるようになり、最初は「まさか！」と言っていましたが、取材を重ね自分にしか無い知識がいつの間にか形成されていました。ある日、おや、もしかして私は書けるかも？と思い始めたのです。

田中の活動が現地新聞に載った

そこからは悪戦苦闘の日々でしたが、２年半かけて日本初の現代サーカス概説書「サーカスに逢いたい～アートになったフランスサーカス」の出版に至りました。

田中未知子著「サーカスに逢いたい～アートになったフランスサーカス」

田中未知子氏プロフィール

（一社）瀬戸内サーカスファクトリー代表理事。札幌市出身。２０１１年に香川県に移住し瀬戸内サーカスファクトリー立ち上げ、２０１４年に法人化。現代サーカスを通じて、地域とともに新しい文化を創造している。

健康長寿の秘訣！「フレイル予防」

糖尿病看護特定認定看護師　西原　環

最近、「体重が減少した」「疲れやすい」「歩くスピードが遅くなった」「食事でむせることが多くなった」「外にでるのがおっくう」と感じることはありませんか。これらの身体の変化はフレイル（加齢により心身の活力が低下した状態）の予兆かもしれません。年齢のせいとあきらめず、このような状態にいち早く気づき、フレイル予防に取り組むことでその進行を緩やかにし、健康に過ごせていた状態に戻すことができます。

健康的に自分らしく過ごすための秘訣は、「十分な栄養」、「適度な運動」、「人とのつながり」です。この３つを自分の生活サイクルにうまく組み入れて、いつまでも元気に暮らすために、無理なく楽しくフレイル予防をはじめませんか。

簡単な筋肉トレーニング

【つま先立ち】

足を肩幅に開き、膝は伸ばしたまま踵を上げて5秒静止してから下ろします。

ゆっくりと、10回行いましょう。

今号のニューボーンフォト

当院で誕生したかわいい３名の赤ちゃんをご紹介いたします。
ご出産、ご誕生おめでとうございます！

写真は、希望された方のみ掲載しております。
ニューボーンフォトにご興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

LINE

新任医師紹介

外科部長心得
藤田 脩斗（ふじた しゅうと）

はじめまして。このたび、令和7年4月より外科・消化器外科に赴任いたしました藤田脩斗と申します。出身は岡山県岡山市で、岡山大学を卒業後、広島県・岡山県の関連病院に勤務しておりました。丸亀市はもとより、香川県に勤務するのは初めてで楽しみにしております。中讃・西讃地域の皆様に安心・安全な医療を提供できるよう努めさせて頂きます。

まだまだ至らぬ点は多々あるとは思いますが、一生懸命頑張りますので、ご指導・ご鞭撻のほど何卒宜しくお願いいたします。

外科部長心得
宇根 悠太（うね ゆうた）

4月より勤務しています外科の宇根悠太です。この度、10年ほど振りに香川労災病院での勤務となりました。より一層、丸亀の皆さまの医療に貢献できるよう勤めてまいります。前回はひとりでやって来た丸亀でしたが、家族も増え、今回は6人でやってきました。家族全員、暖かく迎えてくださると幸いです。精一杯頑張ってまいります、よろしくお願いします。

脳神経外科副部長
藪野（やぶの） 諭（さとる）

この度、令和7年4月から6年ぶりに香川労災病院で勤務することになりました、脳神経外科の藪野諭と申します。

当院には2017年から2019年の2年間、後期研修医として勤務しておりました。その後、岡山大学大学院で脳梗塞モデルラットに対する細胞移植の研究で博士号を取得し、岡山大学病院で勤務しながら脳神経外科専門医の資格を取得しました。2023年11月から香川県立中央病院で勤務しておりましたが、脊椎脊髄分野の研鑽を積み、脊髄外科指導医を目指すべく今回当院で勤務させていただきます。

趣味は筋トレとランニングです。お昼ごはんは必ず鳥むね肉、ゆで卵、白米です。一緒にトレーニングしましょう。至らぬ点も多々あるかと存じますが、ご指導を何卒宜しくお願い致します。

麻酔科副部長
白川（しらかわ）　拓（たく）

２０２５年1月より赴任して参りました白川拓です。大手前丸亀高校を卒業後、大学時代よりほぼ岡山県内で過ごしておりました。今まで培ってきた知識・技術をお世話になった地元に還元できればと思っております。また私は麻酔科ですので主に手術室や集中治療室で勤務する日陰者ですが、「自分の受けたい医療を提供する」をモットーに診療に当たりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

内科医師
志賀（しが）　崇史（たかふみ）

はじめまして。４月1日よりお世話になります、香川大学卒後９年目の志賀崇史と申します。専門は腎臓です。最近は、４月で２歳になる息子と一緒に過ごす時間が何よりの楽しみです。まだあまり発語は多くありませんが、分かる言葉はどんどん増えていて、笑顔でパパと呼んでくれるようになりました。そんな日々成長していく息子とともに、自分も医師として親として成長していければと思っています。よろしくお願いします。

内科医師
渡邉（わたなべ）　太一郎（たいちろう）

初めまして、消化器内科６年目の渡邉太一郎と申します。

新しい医学知識についていくので精一杯ですが、時間が空いた時にはコーヒーを淹れスローライフを送っております。老後は読書しながら寝落ちしたり、自然の澄んだ空気をいつでも吸えるような生活にあこがれています。

消化器内科に特化した外来だけでなく、その他の様々な内科疾患を診て、一人でも多く満足いく診療が出来るよう頑張りたいと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

内科医師
随行（ずいぎょう）　香穂里（かおり）

今年度より入職致しました随行香穂里と申します。ＫＫＲ高松病院、香川大学病院で消化器診療に携わっており現在に至ります。

「随行」という苗字は聞き馴染みがないとは思いますが、私の出身である広島でもほとんどおらず、私自身も馴染みの薄い苗字です。まずは名前だけでも覚えてくださるとありがたいです。

今までは丸亀市に訪れる機会が少なく、これを機に美味しい居酒屋さんなど新しく発掘できたらなぁと楽しみにしております。

まだまだ至らない点もあるかと存じますが、引き続き患者さんに適切な医療を提供できるように精一杯頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

整形外科医師
安岐（あき）　涼輔（りょうすけ）

令和７年４月から赴任しました、整形外科医の安岐涼輔（あきりょうすけ）と申します。

香川県高松市の出身で、徳島大学を卒業し研修医時代からは岡山で過ごしました。

休日はよく釣りに行き、家で調理するのが趣味です。家を魚臭くしないよう妻からご指摘を受けております。いい方法があれば教えてください。

肩を含めた手外科領域を専門としております。お困りのことがあれば何でもご相談ください。もちろん専門領域以外のことでも大歓迎です！

内科医師
谷本（たにもと）　友希奈（ゆきな）

はじめまして。今年度から香川労災病院に赴任いたしました内科の谷本友希奈と申します。糖尿病などの病気を診る、内分泌・代謝内科を主に勉強しております。大学進学を機に和歌山から香川に引っ越して来て、とても住みやすくすてきな所だと思いました。この町で、精一杯努力してゆきたいと思います。よろしくお願いいたします。私の趣味は短歌を詠むことです。「四月にも雪が降るのとつぶやいたきみの肩口ひらり花びら」

形成外科医師
髙見（たかみ）　茉梨乃（まりの）

４月から赴任いたしました、形成外科の髙見茉梨乃と申します。

香川大学を卒業後、岡山赤十字病院で初期研修を行い、この春から再び香川に戻ることになりご縁を感じています。岡山で香川のうどんの美味しさを再認識し、また味わえるのが今から楽しみです。新しい環境に緊張もあり、至らない点も多々あると思いますが、丁寧な診療を心掛け、少しでも皆様のお役に立てるよう精進してまいります。どうぞよろしくお願いします。

研修医
石川（いしかわ）　康子（やすこ）

はじめまして、４月より初期研修医として勤務させていただくことになりました、石川康子と申します。徳島大学出身で、丸亀市で生活するのは初めてとなります。趣味はランニングと料理です。最近はマラソンなどにもチャレンジしていて、丸亀ハーフマラソンにも参加してみたいと思っています。

至らぬ点も多々あると存じますが、患者様に安心していただける医療をお届けできるよう、努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

研修医
小野（おの）　愛美（まなみ）

はじめまして。今年度より新しく初期研修医として香川労災病院で勤めさせていただく、小野愛美と申します。香川県出身で、香川大学を卒業しました。大学ではスキー部とウインドサーフィン部に所属していました。趣味は愛犬の散歩や旅行をすることです。育ちも香川ですが丸亀市に住むのは初めてなので、これから西讃の美味しいうどん屋を巡るのが楽しみです。これから精一杯頑張ってまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

研修医
田尾（たお）　美澪（みれい）

はじめまして。４月より初期研修医として勤務させていただくことになりました、香川大学出身の田尾美澪と申します。丸亀市で生まれ育ち、この度大好きな地元で勤務できることを嬉しく思っています。趣味はダンスで、高校時代はチアで野球部の応援に、大学時代はジャズダンスに打ち込んでいました。

不慣れな点も多々あると存じますが、地域に、そして皆様に寄り添うことができる医師を目指して精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

研修医
長尾（ながお）　卓（たく）

はじめまして。四月より香川労災病院で初期研修医として働くことになりました、長尾卓と申します。私は坂出市出身でこの春岡山大学を卒業しました。再びこの中讃のエリアに帰ることとなり、生まれ育った地域で医師としての第一歩を踏み出すことが出来ることをうれしく思っております。私はボードゲームや謎解きが好きで時間があれば遊んでおります。面白い謎や、丸亀市の素敵なお店など教えていただければ嬉しいです。どうぞよろしくお願いします。

研修医
森下（もりした）　景行（けいこう）

はじめまして。初期研修医として香川労災病院に勤務させていただくことになりました森下景行と申します。出身は香川県で大手前丸亀高等学校・関西医科大学を卒業しました。自分が育った地元丸亀で研修できることを楽しみにしております。趣味はラケット競技全般、特に現在は大学から始めた卓球に力を入れています。

若輩者ではございますが、少しでも早く一人前の医師になれるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

クラウドファンディングの結果報告

会計課長　荒木　淳

本年1月27日よりスタートした「救急車更新に向けてのクラウドファンディング活動」ですが、皆様のご支援のおかげで、3月5日に第一目標金額の2，000万円を達成し、最終的には第二目標の2，800万円も大きく超える結果となりました。（寄付総額は、病院HPにて公表します。）

この活動を振り返りますと、昨年夏より影山副院長を筆頭にチームを立上げ、綿密な活動計画を立てて実施してまいりました。この期間、労災病院への応援と期待の声は毎日多数届いており、各職員が自分の職場を改めて見つめ直す良い機会となりました。

この思いに応える責任を踏まえ、これからの中西讃地域における住民の皆さま・地域医療連携機関の皆さまと持続可能な医療のグランドデザインを構築していくことが必要だと思っております。今後ともご厚誼賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

改めまして、ご寄附・ご賛同をいただいた全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

お知らせ

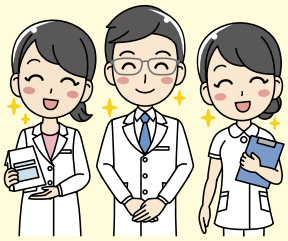
採用情報

香川労災病院は現在職員を募集しております。募集職種や詳細については当院のホームページ「採用情報」をご確認ください。

ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

ご連絡をお待ちしております。

【連絡先】
香川労災病院　総務課
TEL：0877-23-3111



ボランティアさん大募集

当院ではボランティアさんを大募集中です。

患者さんのスムーズな受診のサポートや、ほっとするお声がけなどのお手伝いをお願いしています。

ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

ご連絡をお待ちしております。

【連絡先】
香川労災病院　総務課
TEL：0877-23-3111

編集だより

患者サービス向上委員
澤田　裕子

今月号は、春の訪れとともに、当院の活動をお届けいたしました。1月はニューイヤーコンサート、2月はオープンホスピタルと多くの方々にご参加いただきありがとうございました。また、皆様のご支援のおかげで、新しく救急車を購入するためのクラウドファンディングも目標を達成する事ができました。今後も地域の皆様に支えられながら、よりよい医療と看護を提供できるよう努力します。本誌でも地域とつながり親しみやすい病院になれるよう、情報をお伝えしていきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。